

NEC
Express5800シリーズ

WebSAM[®] JMSS[®] Ver7.3
UL1044-G01
UL1044-HG01
UL1044-JG01

セットアップカード

ごあいさつ

このたびは、WebSAM JMSS シリーズをお買い上げ頂き、まことにありがとうございます。

本書は、セットアップ方法について説明しています。製品をお使いになる前に必ずお読みください。

また、WebSAM JMSSの説明書として次のものがあります。

- ・「WebSAM JMSS Ver7.3 ユーザーズマニュアル」（以降「JMSSユーザーズマニュアル」と略す。）

最新情報は、NECサポートポータル(<https://www.support.nec.co.jp/>)にて公開しております。

- ・最新マニュアル、セットアップカード

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=3170100377>

【JMSS】 マニュアル、セットアップカード

- ・最新リビジョンの紹介

【JMSS】 最新リビジョンを教えてください。

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=3150111020>

Microsoft®、Windows®、Windows Server®、Windows Vista®は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

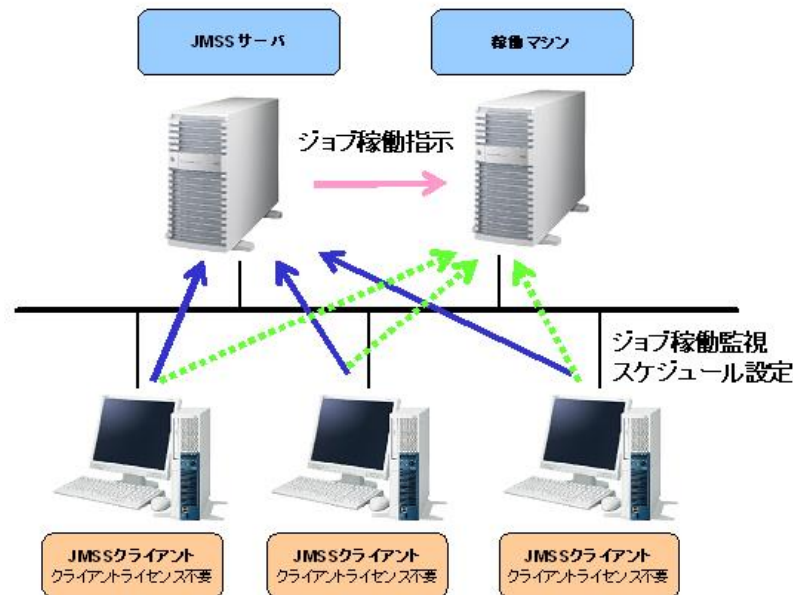
その他の会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。

目 次

ごあいさつ	ii
目 次	iii
1 インストールの準備	1
1.1 システム環境	1
1.2 インストールを行う前に	3
2 インストールの方法	4
2.1 JMSS サーバおよび稼働マシンのインストール	4
2.2 JMSS クライアントのインストール	9
3 ジョブ実行ログ DB 出力準備	11
3.1 データベースサーバ側の準備	11
3.2 JMSS サーバ側の準備	11
3.3 データベーステーブルの内容	13
4 アンインストール	14
4.1 JMSS サーバおよび稼働マシンのアンインストール	14
4.2 JMSS クライアントのアンインストール	14
5 注意事項	15
5.1 稼働マシンの登録	15
5.2 ドメイン名またはコンピュータ名の変更	15
5.3 JMSS で使用するポート番号の設定方法	15
5.4 JMSS に関するデータの移行	16
5.5 バージョンアップについて	16
5.6 その他	17
付録 終了コード表	19

1 インストールの準備

1.1 システム環境



●JMSSサーバ、稼働マシン

オペレーティングシステム	Windows Server 2008 Standard Windows Server 2008 Enterprise Windows Server 2008 R2 Standard Windows Server 2008 R2 Enterprise Windows Server 2012 Standard Windows Server 2012 Datacenter Windows Server 2012 R2 Standard Windows Server 2012 R2 Datacenter Windows Server 2016 Standard Windows Server 2016 Datacenter Windows Server 2019 Standard Windows Server 2019 Datacenter
メモリ容量	6.4MB 以上(JMSS 最小使用メモリ)
固定ディスク空き容量	100MB 以上

●JMSSクライアント

オペレーティングシステム	Windows Server 2008 Standard Windows Server 2008 Enterprise Windows Server 2008 R2 Standard Windows Server 2008 R2 Enterprise Windows Server 2012 Standard Windows Server 2012 Datacenter Windows Server 2012 R2 Standard Windows Server 2012 R2 Datacenter Windows Server 2016 Standard Windows Server 2016 Datacenter Windows Server 2019 Standard Windows Server 2019 Datacenter Windows Vista Business Windows 7 Professional Windows 8 Pro、Windows 8.1 Pro Windows 10 Pro
メモリ容量	6MB以上(JMSS最小使用メモリ)
固定ディスク空き容量	80MB以上

■JMSSサーバ

ジョブ運用を集中管理／監視するサーバです。

●ドメインモード

JMSSをドメイン環境で利用するモードです。ドメイン内の他のサーバを稼働マシン(ジョブが実行されるマシン)として利用できます。1台のJMSSサーバと、複数台の稼働マシンを利用した構成が可能です。

JMSSのインストールを開始する前に、どのサーバをJMSSサーバにするかを決めておく必要があります。

●ワークグループモード

JMSSをワークグループ環境で利用するモードです。JMSSサーバ1台で構成します。稼働マシンを利用することはできません。なお、ドメイン環境であっても、1台でのみ使用する場合はワークグループモードを選択することも可能です。

■稼働マシン

JMSSサーバや他の稼働マシンからのジョブ投入指示により、実際にジョブが実行されるマシンのことです。なお、ワークグループモードではご使用になれません。

注意： JMSSサーバと稼働マシンは必ず同一ドメインに属している必要があります。

1.2 インストールを行う前に

インストールを行う前に、以下の条件をすべて満たしていることを確認してください。
条件を満たさない場合、インストールが正常に行えない場合があります。

(1) マシン環境の条件

① ドメインモードの場合

- ・JMSS運用コンピュータは、JMSS運用ドメインに属していること。
- ・ログオン先は、JMSS運用ドメインであること。
- ・ドメインコントローラが正常に起動していること。

② ワークグループモードの場合

- ・JMSS運用ワークグループに属していること。

(2) インストールユーザーの条件

インストールユーザーは、以下のユーザーグループに属していること。

① ドメインモードの場合

- ・JMSS運用ドメインの「Administrators」グループ
- ・JMSS運用ドメインの「Domain Admins」グループ
- ・JMSS運用コンピュータの「Administrators」グループ（ドメインコントローラ以外の時）

② ワークグループモードの場合

- ・JMSS運用コンピュータの「Administrators」グループ

注意： JMSSのアンインストールは、インストールユーザーと同じユーザーで行う必要があります。
--

(3) ESMPRO/JMSS JLook Serviceのアカウントの準備

インストール時にESMPRO/JMSS JLook Serviceのアカウントを指定しますので、以下の条件を満たすアカウントを準備してください。

① ドメインモードの場合

- ・JMSS運用ドメインの「Administrators」グループ
- ・JMSS運用ドメインの「Domain Admins」グループ
- ・JMSS運用コンピュータの「Administrators」グループ（ドメインコントローラ以外の時）

② ワークグループモードの場合

- ・JMSS運用コンピュータの「Administrators」グループ

(4) Computer Browserサービスの状態

Ver7.30ではESMPRO/JMSS JLook ServiceがComputer Browserサービスに依存していますので、Computer Browserサービスのスタートアップの種類を「自動」または「手動」に変更してください。（Ver7.31以降では不要です）

(5) Windows Server 2019でVer7.31/Ver7.32を使用する場合

Windows Server 2019でVer7.31/Ver7.32を使用する場合には、注意事項があります。
下記NECサポートポータルを参照してインストールを行ってください。

【JMSS:動作環境】 Windows Server 2019で使用できますか？

<http://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=3150114159>

2 インストールの方法

『1. インストールの準備』を必ず読み、インストールの準備を行ってから、インストールを行ってください。

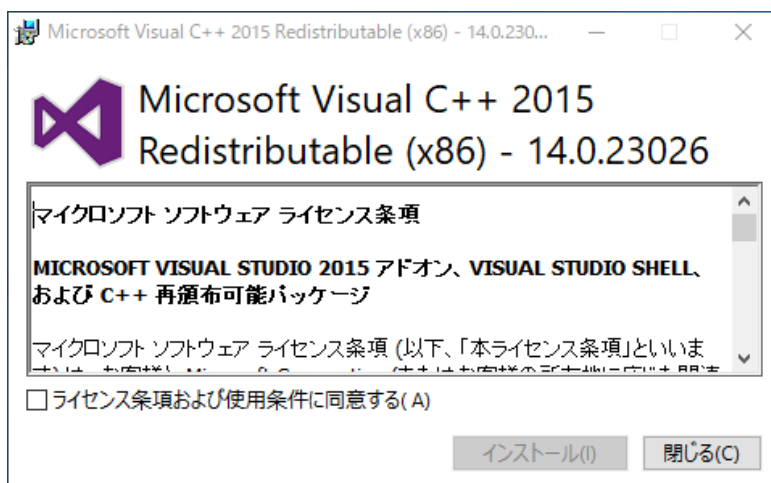
2.1 JMSS サーバおよび稼働マシンのインストール

注意： ①サーバ上で「ESMPRO/ServerManager Ver4.x」と連携し、統合ビューアからJMSSサーバの監視を行うには、前もって「ESMPRO/ServerManager Ver4.x」をインストールしておく必要があります。
②稼働マシンのインストールは、JMSSサーバのインストール後に行ってください。
③上書きインストールの場合は、ESMPRO/JMSS JLook Serviceを停止する必要がありますので、ジョブが起動されていないこと、スケジュールジョブが投入されない時間帯であることを確認してから実施してください。

- (1) WebSAM JMSSの製品パッケージに入っているCDのsetup.exeを起動します。
- (2) インストールウィザードが起動されますので、ウィザードに従ってインストールを進めてください。

いくつかのダイアログについて説明します。

- (a) 「Microsoft Visual C++ 2015 ランタイムライブラリ」適用ダイアログ



Ver7.34以降はインストールおよびJMSSの実行環境でMicrosoft Visual C++ 2015以上のランタイムライブラリが必要になります。このランタイムライブラリがインストールされていない場合、上記のダイアログが表示されますのでインストールを行ってください。

注意： Microsoft Visual C++ 2015以上のランタイムライブラリがインストールされていない場合、インストールが失敗します。

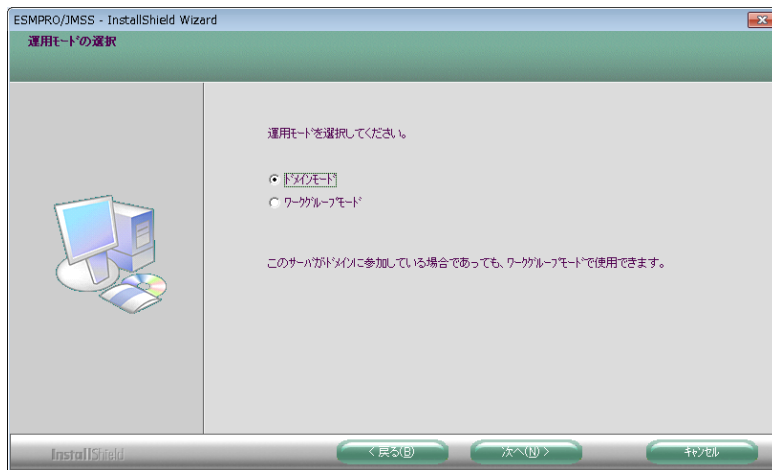
(b) 「製品の選択」 ダイアログ



このダイアログでは、インストールする製品を選択します。

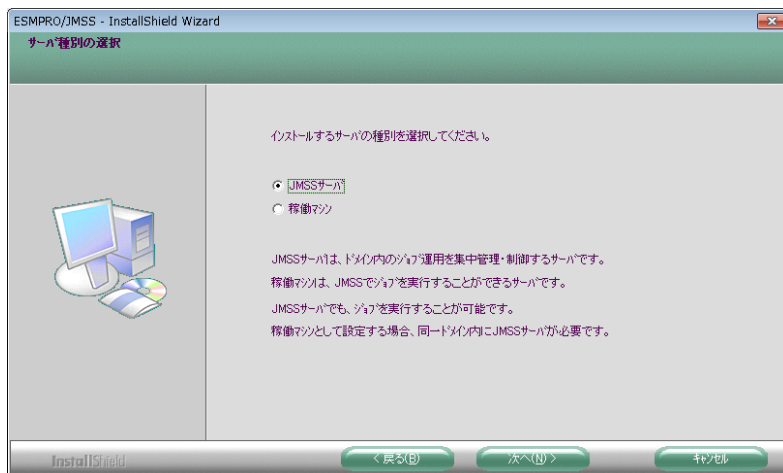
- WebSAM JMSSのインストール有無にかかわらず、開発キットJAPIがインストールできます。
- インストール済みの製品を選択すると、その製品は上書きインストールされます。

(c) 「運用モードの選択」 ダイアログ



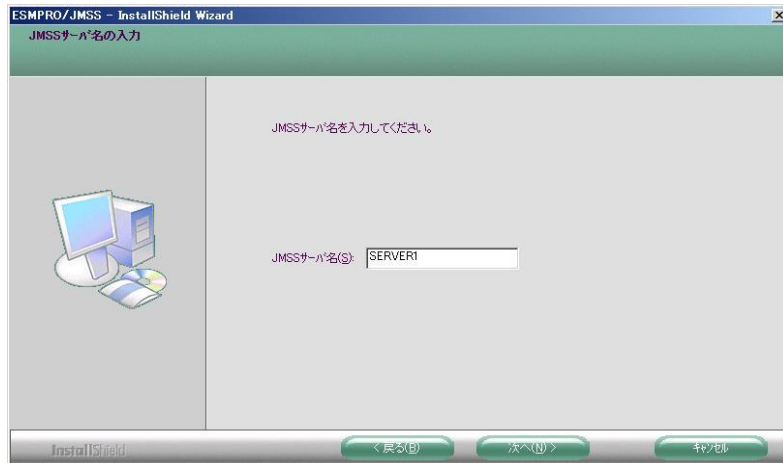
このダイアログでは、「ドメインモード」か「ワークグループモード」を選択します。

(d) 「サーバ種別の選択」 ダイアログ（ドメインモードのみ）



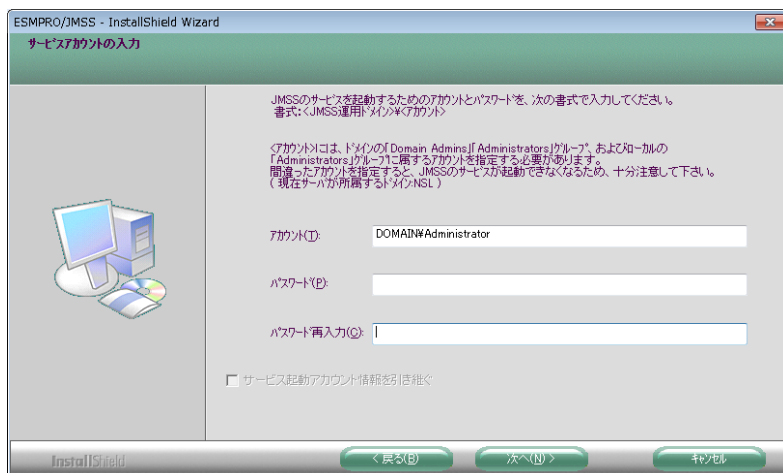
インストールするサーバの種別を選択します。

(e) 「JMSSサーバ名の入力」 ダイアログ（ドメインモードの稼働マシンのみ）



このダイアログでは、JMSSサーバ名を指定します。既に存在するJMSSサーバ名を指定してください。JMSSサーバが存在しない場合は、インストールを中止し、先にJMSSサーバのインストールを行ってください。

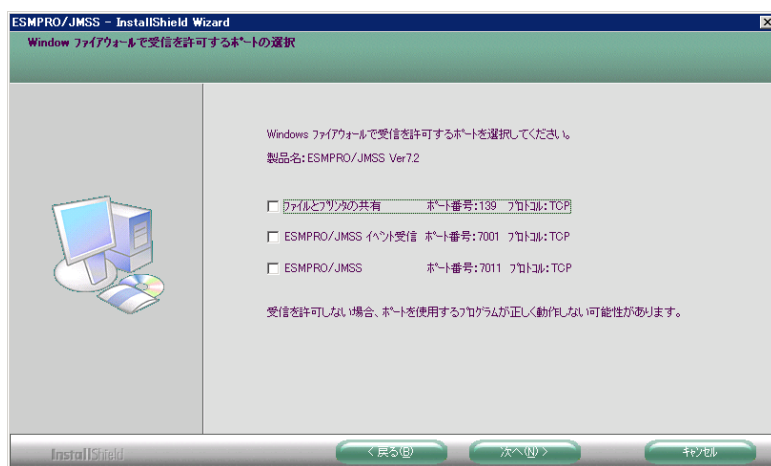
(f) 「サービスアカウントの入力」 ダイアログ



このダイアログでは、ESMPRO/JMSS JLook Serviceのアカウントを指定します。『1. インストールの準備』で準備したアカウントを指定してください。アカウント名は、ドメインモードの場合は“<JMSS運用ドメイン名><ユーザー名>”、ワークグループモードの場合は“<コンピュータ名><ユーザー名>”の形式で指定します。

バージョンアップの場合には、以前に入力したアカウント情報を利用することが可能です。「サービス起動アカウント情報を引き継ぐ」にチェックを入れてください。

(g) 「Windowsファイアウォールで受信を許可するポートの選択」ダイアログ



このダイアログでは、**JMSS**で使用するポートを設定します。受信を許可しない場合、**JMSS**は正しく動作しませんので、ここで設定しない場合は、インストール後にポートを設定してください。

なお、**Windows Firewall**のサービスが起動している場合のみ、このダイアログが表示されます。

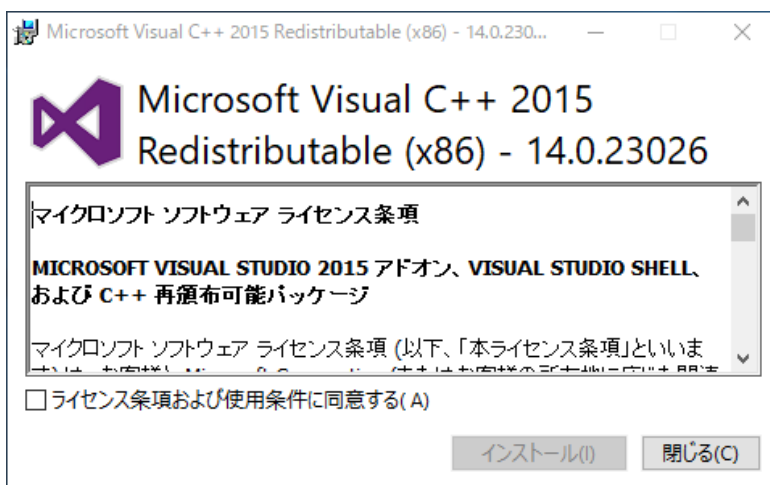
また、アンインストールしても、上記のポートの設定はインストール前の状態に戻りませんので、ご注意ください。

注意： インストール時に万が一、エラーが発生した場合は「付録 終了コード表」を確認してください。

2.2 JMSS クライアントのインストール

注意：「ESMPRO/ServerManager Ver4.x」と連携し、統合ビューアから複数のJMSSサーバの監視を行うには、前もって「ESMPRO/ServerManager Ver4.x」をインストールしておく必要があります。

- (1) JMSSサーバの<JMSSインストールディレクトリ>¥<WIN32>ディレクトリを共有します。
- (2) (1)で共有したディレクトリのSETUP.EXEを起動します。
- (3) インストールウィザードが起動されますので、ウィザードに従ってインストールを進めてください。なお、Ver7.34以降はインストールおよびJMSSの実行環境でMicrosoft Visual C++ 2015以上のランタイムライブラリが必要になります。このランタイムライブラリがインストールされていない場合、下記のダイアログが表示されますのでインストールを行ってください。



注意： Microsoft Visual C++ 2015以上のランタイムライブラリがインストールされていない場合、インストールが失敗します。

下記のインストールウィザードのダイアログでは、**JMSS互換モジュール**を選択してください。



ESMPRO/ServerManagerを利用して旧バージョンのJMSSに接続する場合、旧バージョンのクライアントモジュールをインストールする必要があります。必要な互換モジュールを選択してください。

(ご利用のバージョンにより、選択できる互換モジュールが異なります。)

3 ジョブ実行ログ DB 出力準備

ジョブ実行ログ DB 出力とは、ジョブの実行結果をデータベースへ記録する機能です。本機能を利用することにより、ジョブ実行ログの長期保存や管理が容易になります。

3.1 データベースサーバ側の準備

以下の手順に従って、データベースサーバ側の準備・設定を行ってください。

なお、各操作方法の詳細については、使用するデータベースサーバ製品に添付されているマニュアルを参照してください。

- (1) データベースサーバ製品のインストール
データベースサーバ製品をインストールしてください。
データベースサービスは自動起動するよう設定してください。
- (2) データベースの作成
JMSS サービスが使用するデータベースを作成してください。
ジョブ 1 件の登録につき約 3KB のデータベース領域を使用しますので、データベースのサイズには十分な余裕を持たせてください。
- (3) ログイン ID の作成
JMSS からデータベースにアクセスするためのログイン ID を作成してください。
作成するログイン ID には、使用するデータベースに対する十分なアクセス権を与えてください。

3.2 JMSS サーバ側の準備

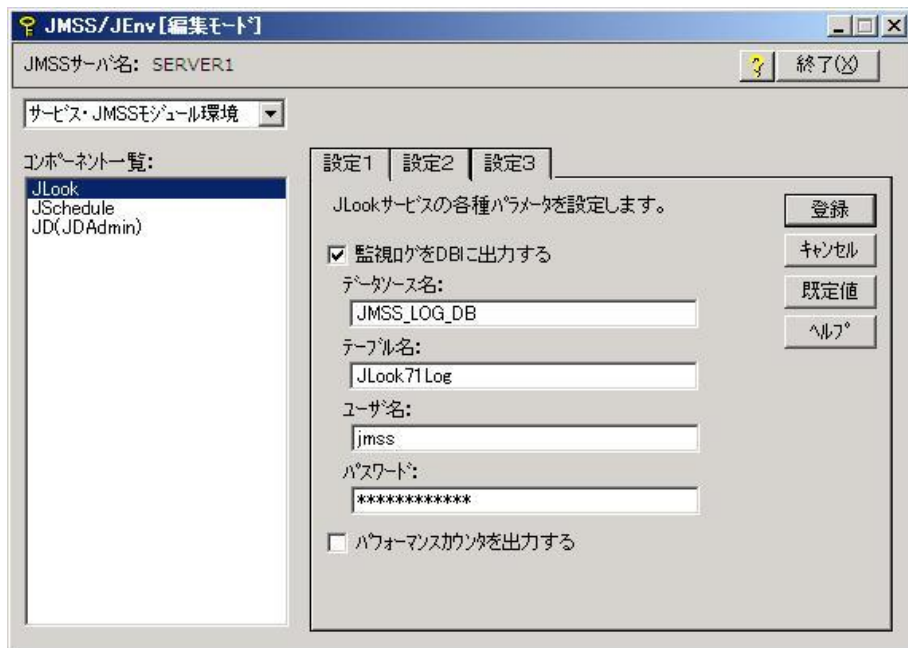
JMSS サーバ側では、ODBC ドライバのインストールと、JLook サービスの設定を行います。

- (1) ODBC ドライバのインストール
ODBC ドライバをインストールしてください。
- (2) データベース別名の設定（Oracle 使用時のみ）
データベースサーバとして Oracle を使用する場合はデータベース別名を設定してください。
- (3) ODBC システムデータソースの登録
使用する ODBC システムデータソースを登録してください。
Oracle を使用する場合は、「SQL*Net 接続文字列」（または「サービス名」）に(2)で設定したデータベース別名を設定してください。

注意： ODBC データソースの設定時には、必ずシステムデータソースを設定してください。
64 ビット OS の場合は、32 ビットの ODBC ドライバをインストールしてください。

(4) JLook サービスの設定

- ① JMSS セキュリティ設定権を持つユーザーでログオンし、[JMSS/JEnv]を起動します。
- ② [JMSS/JEnv]メインウィンドウ左上のコマンド選択ボックスから、[サービス・JMSS モジュール環境]を選択します。
- ③ [コンポーネント一覧]リストボックスから[JLook]を選択します。
- ④ [設定 3]パネルを選択し、必要な情報を設定します。



各項目の意味は次のとおりです。

項 目	説 明
データソース名	ODBC で設定したデータソース名を指定します。
テーブル名	ジョブの実行結果を格納するためのテーブル名を指定します。 初期値は "JLook71Log" です。
ユーザー名	データベースにアクセスするためのログイン ID を指定します。
パスワード	ログイン ID に対応するパスワードを指定します。

3.3 データベーステーブルの内容

ジョブ実行結果の格納に使用するデータベーステーブルは、JMSS が自動的に作成します。
作成されるテーブルは以下の通りです。

カラム名	データ型	サイズ (バイト)	説明
BusinessName	CHAR	33	業務名
JobType	CHAR	41	ジョブ種別
ScheduledJob	CHAR	17	自動運転したかどうか
Repetition	CHAR	17	周期指定ありかどうか
DerivedJobs	CHAR	17	派生ジョブが存在するかどうか
Continued	CHAR	17	継続実行したかどうか
StandardOutput	CHAR	17	標準出力の監視を行っているかどうか
StartDateTime	CHAR	20	ジョブ投入開始日時
EndDateTime	CHAR	20	ジョブ終了日時
ProgressTime	CHAR	9	経過時間
ExecType	CHAR	17	ジョブ起動方式
JobStatus	CHAR	33	ジョブの状態
ExitCode	CHAR	9	終了コード
UserName	CHAR	41	ユーザー名
QueueName	CHAR	16	ジョブキュー名
ComputerName	CHAR	16	稼働マシン名
WorkstationName	CHAR	16	投入マシン名
Priority	CHAR	9	優先順位
JobName	CHAR	254	ジョブ名
WorkingDir	CHAR	254	実行ディレクトリ
StdOutFile	CHAR	254	標準出力監視ファイル名
Parameter	CHAR	254	パラメータ
TotalCPUTime	INT	4	CPU の使用時間
UserCPUPercentage	INT	4	CPU 使用時間内のユーザーモードの割合
MinimumWorkingSet	INT	4	ジョブが使用したメモリの最小値 (KB)
MaximumWorkingSet	INT	4	ジョブが使用したメモリの最大値 (KB)
JobNumber	INT	4	ジョブ番号

4 アンインストール

4.1 JMSS サーバおよび稼働マシンのアンインストール

- (1) WebSAM JMSSの製品パッケージに入っているCDのsetup.exeを起動します。
- (2) インストールウィザードが起動されますので、ウィザードに従ってアンインストールを進めてください。

注意： ①JMSSのオプション製品（開発キットJAPIを除く）を使用している場合、オプション製品もアンインストールされます。
②JMSSクライアント用のインストーラはJMSSサーバ上に格納されています。すべてのJMSSクライアントのアンインストールを行ってから、JMSSサーバのアンインストールを行ってください。

4.2 JMSS クライアントのアンインストール

- (1) アンインストールを行うJMSSクライアントマシンから、JMSSサーバの<JMSSインストールディレクトリ>\<WIN32>ディレクトリを開き、setup.exeを起動します。

注意： クライアントインストール格納ディレクトリにネットワーク接続するためには、JMSSサーバで共有設定しておく必要があります。あらかじめ『2.2 JMSSクライアントのインストール』に従ってクライアント用インストールが格納されたディレクトリを共有してください。

- (2) インストールウィザードが起動されますので、ウィザードに従ってアンインストールを進めてください。

5 注意事項

5.1 稼働マシンの登録

稼働マシンとして「WebSAM JMSS」をインストールした場合、インストールしたマシンを稼働マシンとしてJMSSサーバに登録する必要があります。

登録を行わないとそのマシンに対してジョブを投入することはできません。

稼働マシンの登録はJMSS/JEnv（運用環境設定）で行いますので、詳しくは JMSS ユーザーズマニュアルのJMSS/JEnvのページを参照してください。

5.2 ドメイン名またはコンピュータ名の変更

JMSSサーバをインストール後、コンピュータ名、もしくはそのコンピュータが参加しているドメイン名を変更した場合には、JMSS（サーバおよび稼働マシン）を上書きインストールしてください。

上書きインストール後、JMSSクライアントに関する設定を再度実施してください。

5.3 JMSS で使用するポート番号の設定方法

JMSSでは、ポート番号7001、7011を使用します。

ポート番号7001、7011が既に他のソフトウェアにて使用されている場合、ポート番号を変更してください。

- ① “システムドライブ”¥Windowsインストールディレクトリ¥system32¥drivers¥etc¥ services” ファイルを開きます。

- ② サービス名及びポート番号を追加／変更します。

（例） イベント送受信の場合

jmssevt 7002/tcp

JMSSサーバ／クライアント間通信の場合

jmss 7012/tcp

注意： ①サービス名（jmssevt、jmss）とポート番号（7001/tcp、7011/tcp）の間の空白は半角スペースで入力してください。タブは使用しないでください。
②ポート番号を変更する場合は、JMSSサーバ、稼働マシン、クライアントで同一のポート番号を指定してください。

5.4 JMSS に関するデータの移行

JMSSを利用して作成したデータについては、移行できるデータと移行できないデータがあります。

■移行できるデータおよび手順

- ・ スケジュールデータ
- ・ カレンダーデータ

旧環境のJScheduleで、[ファイル]→[CSV方式で保存]、新環境で[ファイル]→[CSV方式の読み込み]を行ってください。

スケジュールデータの保存は、全登録一覧ウィンドウをアクティブにしてから行ってください。また、2つ以上のカレンダーが設定されている場合、カレンダーデータは1カレンダーずつ出力する必要があります。

- ・ ジョブネットファイル(*.jnt)
- ・ メニューファイル(*.jmn)

基本的にはそのまま使用可能ですが、ジョブのパスやジョブキュー名などが変更されている場合、修正する必要があります。ジョブネットファイルはJBuildで修正するか、csv形式に出力して修正してください。メニューファイルはJMenuで修正してください。オプション製品のユーティリティを利用すれば、ジョブネット・メニューの設定内容の一括置換ができます。

■移行できないデータ、設定

- ・ JEnv上の設定内容

手動で再設定となります。

- ・ JLookのログ

CSV形式で保存はできますが、移行はできません。

- ・ クライアントの設定項目

JLookでの[環境設定]→[表示項目設定]など、クライアントの設定項目のカスタマイズに関しては再設定が必要です。

5.5 バージョンアップについて

サーバは変更せず、JMSSのみを V7.0 以前から V7.3 へバージョンアップする場合は次の手順で行ってください。

・ バージョンアップを行う前に、コマンド(JCSVSCH)またはJscheduleを使用して、スケジュールデータおよびイベント起動データをCSV保存してください。

・バージョンアップ終了後、コマンド(JCSVSCH)またはJscheduleを使用して、CSV保存したスケジュールデータおよびイベント起動データを読み込みます。

注意： V7.0以前からV7.3へバージョンアップの際には、インストーラはスケジュールデータおよびイベント起動データを*.BAKにリネームしますので、ご注意ください。

5.6 その他

(1) インストールについて

本製品より前のバージョンの製品を上書きインストールしないでください。

(2) スタートアップに入っているJMSS/JDStartはGUIアプリケーションを動作するために必要なプログラムです。削除しないでください。

(3) 同一ドメイン複数JMSSサーバ構成での注意事項

同一ドメイン内に複数のJMSSサーバが存在する場合は、それぞれ独立して運用し、次のような設定はしないでください。

- ・あるJMSSサーバを、他のJMSSサーバの稼働マシンとする
- ・ある稼働マシンを、複数のJMSSサーバの稼働マシンとする

他のJMSSサーバとジョブ連携する必要がある場合は、イベント送受信機能を利用してください。

(4) ワークグループモード

ワークグループモードでは、JMSSサーバ単独運用になります。稼働マシン、クライアントの追加はできません。また、JMSSセキュリティの初期値は”Everyone”（すべてのユーザー）に設定されています。変更を行う場合には、JMSS/JEnvよりJMSSセキュリティを設定してください。

なお、JMSSサーバとJMSSクライアントマシンに共通のユーザーカウント(パスワードも同一)を作成し、そのユーザーでログインしてJMSSを利用する場合は、ワークグループモードでのJMSSクライアントの利用が可能です。

(5) ワークグループモードからドメインモードへの移行

ワークグループモードからドメインモードに変更する場合、または、ドメインモードからワークグループモードに変更する場合は、JMSSの上書きインストールを行ってください。

ただし、マシンをドメインに参加させた場合でも、JMSSをワークグループモードのまま利用することができます。ドメインに参加させる前と同様の運用を行うのであれば、上書きインストールや設定変更などの必要はありません。

(6) 64Bit OS環境におけるインストール先フォルダ

インストール先フォルダとして、"[システムドライブ]:¥Program Files"、および、そのサブフォルダが選択された場合、無条件にインストール先が"[システムドライブ]:¥Program Files(x86)"になります。

(7) インストーラの起動について

インストーラは、同時に二つ以上起動しないでください。二つ起動した場合には、すぐに終了してください。

もしも二つ以上のインストーラを同時に実行した場合には、インストール済みの全製品をアンインストールし、再インストールを行ってください。

(8) インストーラの動作について

同一リリースでの再セットアップ、またはバージョンアップインストールを行うと、一部のフォルダ、ファイル、レジストリのアクセス権、及びINIファイルの内容が、インストーラで指定した値や、JMSSの初期状態に変更となります。

○各製品のインストールフォルダ、インストールフォルダ配下のサブフォルダ、及びレジストリのアクセス権を変更している場合には、必要に応じて再設定ください。

1)インストールフォルダは、環境変数の「JMSSDIR」を確認してください。

2)レジストリは下記を参照してください。

- ESM/PRO/JMSS

- HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥NEC¥ESJM

- ユーティリティ

- HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥NEC¥JTOOL

- クラスタ連携オプション

- HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥NEC¥ESJMCL

- EventManager

- HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥NEC¥ESJMEVM

- ジョブ連携オプション

- HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥NEC¥ESJMB

- 開発キット JAPI

- HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥NEC¥ESMJAPI

※ x86の場合は下記になります。

- ESM/PRO/JMSS

- HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC¥ESJM

- ユーティリティ

- HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC¥JTOOL

- クラスタ連携オプション

- HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC¥ESJMCL

- EventManager

- HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC¥ESJMEVM

- ジョブ連携オプション

- HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC¥ESJMB

- 開発キット JAPI

- HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC¥ESMJAPI

○クラスタを構築している場合には、クラスタ構築ガイドに従って再設定ください。

- クラスタ連携オプションあり：

- JclusterEnvを起動し保存する

- クラスタ連携オプションなしのドメイン環境：

- JCLTOOL片方向クラスタ設定ツールで設定

- クラスタ連携オプションなしのワークグループ環境：

- 手動でINIファイルを設定

付録 終了コード表

インストール／アンインストールに失敗した場合、「%temp%」フォルダに出力される JMSS インストールログファイル「~JMSLOG.SYS」をご確認ください。インストールログは「-----」（ハイフン 54 個）から始まるため、最後の該当行以降が最後のインストール／アンインストールのログとなります。

「終了コード： 12050」のように記載される行を確認し、該当コードに対応する対処を実施ください。

下記の表において、コードは上段が 10 進数、カッコ内が 16 進数です。

コード	説 明
0 (0)	内容： インストールに成功しました。 対処： なし。
10769 (2A11)	内容： JMSSインストール情報の参照に失敗しました。 対処： JMSSサーバへのインストールが正常に行なわれたか確認してください。
10770 (2A12)	内容： JMSSインストール情報の作成に失敗しました。 対処： JMSSサーバへのインストールが正常に行なわれたか確認してください。メモリが十分か確認してください。
11027 (2B13)	内容： ファイルの作成に失敗しました。 対処： ディレクトリおよびファイルの書き込み属性を確認してください。
11042 (2B22)	内容： 製品情報の削除に失敗しました。 対処： インストールを起動可能なユーザーか確認してください。 レジストリへのアクセス権があるか確認してください。
11265 (2C01)	内容： ドメイン名の取得に失敗しました。 対処： ドメイン環境とドメインコントローラの状態を確認してください。 またはメモリが不足している可能性があります。いくつかのアプリケーションを終了させて再度「WebSAM JMSS」のインストールを行ってください。
11267 (2C03)	内容： サービスの作成に失敗しました。 対処： サービスが正常に動作していることを確認してください。 また新規インストールの場合では同名のサービスが存在しないこと、上書きインストールでは同名のサービスが存在していることを確認してください。
11270 (2C06)	内容： 自マシン名の取得に失敗しました。 対処： マシン環境を確認してください。
11522 (2D02)	内容： 「JMSS/ジョブ運用管理」、「ESMPRO/JMSS Enterprise Edition」がインストールされています。 対処： 「JMSS/ジョブ運用管理」、「ESMPRO/JMSS Enterprise Edition」をアンインストールしてから「WebSAM JMSS」のインストールを行ってください。
11523 (2D03)	内容： 使用しているOSでは使用できないインストールツールでインストールを行おうとしています。 対処： 使用しているOSに合ったインストールツールでインストールを行ってください。

コード	説 明
11682 (2DA2)	内容： WebSAM JMSSのインストール情報が不正です。 対処： WebSAM JMSSが正しくインストールされているか確認してください。
11713 (2DC1)	内容： JMSS/JLookログファイルの変換に失敗しました。 (バージョンアップインストール時のみ発生) 対処： JMSS/JLookログファイルが壊れている可能性があります。 今までの監視ログは表示できません。
11714 (2DC2)	内容： JMSS/JScheduleで登録したスケジュールデータの変換に失敗しました。(バージョンアップインストール時のみ発生) 対処： スケジュールデータが壊れている可能性があります。 今までに登録したスケジュールデータは使用できません。
11715 (2DC3)	内容： JMSSセキュリティ情報の変換に失敗しました。 対処： JMSSセキュリティ情報が壊れている可能性があります。 今まで使用していたJMSSセキュリティは使用できません。
11716 (2DC4)	内容： JMSSのSG情報が不正です。 対処： (セキュリティ情報、キュー情報) 前回JMSSインストールからマシン名が変更された可能性があります。
11719 (2DC7)	内容： DLLのロードに失敗しました。 対処： メモリが十分か確認してください。
11720 (2DC8)	内容： 本インストーラで旧バージョンの製品をアンインストールできません。 対処： 旧バージョンの製品をアンインストールしてから本インストーラを起動してください。
12050 (2F12)	内容： システムファイルのインストールに失敗しました。 対処： メモリが十分か、空きディスクが十分かを確認してください。